

図をイメージスキャナーでとり、多少の修正、サイズの調整後、熱転写プリンター + 金色テープでプリント)、その上から般若心経を4倍角(勿論黒)でプリントしたというものです。

尚、般若心経の用字にはJIS第2水準にも無い字が2字ある。これは外字を作りました。

以上、結構手間が掛かっているのですが、仏様も変わった写経だと許してくれるのではないかと、勝手に思っています。

2. 2) 参考書等

本、地図の類は、20冊程持って行きましたが、参考になったものを紹介します。

A) 案内書

平幡良雄「四国遍路」阿波・土佐編、伊豫・讃岐編
ブルーガイドパック 「四国」 実業之日本社
マップルマガジン '95 「四国」 昭文社

B) 地図

サテライトマップル 広域中国・四国道路地図 昭文社

C) 参考書

白木利幸「巡礼・参拝用語辞典」 とき書房
小林淳宏「定年からは同行二人」 PHP文庫
村上護 「遍路まんだら」 佼成出版社

有園幸生「お遍路」毎日新聞社

長谷川洋三「『般若心経』の研究」恒文社

司馬遼太郎「空海の風景」上、下 中公文庫

徒歩遍路経験記。

遍路をまんだらと捉える。著者は徒歩遍路をしている。

ミニバイクで遍路。

いろいろ解釈が既にあるが、この研究で納得したような気がする。

Ⅲ. 四国徳島へ (ここから文章のスタイルが変わります)



○ 5月20日、有明18時20分発 オーシャン東九フェリーに乗る。

(左図^Vはフェリー上にて)

船中で、今日午前中に購入した 小林敦宏著 「定年からは同行二人」 PHP文庫 1994年5月16日発行 を読み通す。著者は大正12年生まれで、昭和63年夏に、歩き通した経験を熱っぽく語っている。丁度今の私より2つ3つ年上で回った事になる。感心の限りであるが、これは私には出来ない。

(徒歩遍路について関心のある方は、(3)報、5月29日の項を参照されたい)

V : このマークはビデオ撮影画像から静止画を採ったもの。やはりピントが甘い。

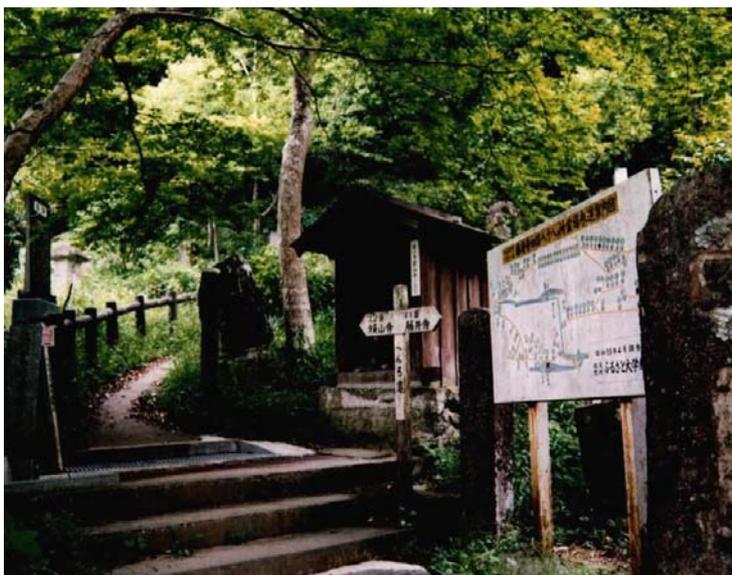
○ 5月21日、12時30分 徳島着。

一番 霊山寺 ～ 六番 安楽寺(宿泊)

一番 霊山寺にて 白衣を求め これを着たまま運転する事とした(その姿はした右図参照)。

二番 極楽寺、三番 金泉寺、四番 大日寺、五番 地藏寺 まで順に打った(巡礼・遍路用語でお参りする事を打つと言う)後、

十一番 藤井寺から逆に打って、六番 安楽寺宿坊に泊まる計画であった。



(上左図は十一番 藤井寺から十二番 焼山寺への遍路道 この道は山道で一日かかるらしい)

しかし、案内本には午後6時まで納経を受け付けると書いてあったが、今年から午後5時までとなっていた事と、十番 切幡寺で手こずった為、九、八、七、六番は22日回しになった。切幡寺は通常、小型車でも仁王門付近まで車で行き、後は333段の石段を登るのであるが、この石段をスキップする抜け道がある。しかしこの抜け道が解りにくい。それを探すのに小一時間も掛かってしまったのである。(歩いた方が早かったが、車に拘った)

安楽寺の宿坊は500人の収容能力があり、四国随一の事で泊ってみたかった(1週間前に予約済み)。私が午後6時半頃に着くと、大型観光バス6台が着いており、宿坊の中は、9割が60(?)過ぎの女性の集団でごったがえしていた。

この寺は、温泉山 安楽寺 と言い、寺伝によると、昔この地方で温泉が湧き、弘法大師が薬師如来を刻み、寺名をつけたとされている。

私は先ず風呂に入る。ここはラジウム鉱石入りの風呂と薬草入りの風呂がある事で知られている。

リコメンドに従ってラジウム風呂中では「南無大師遍照金剛」を唱え、薬草風呂中では薬師如来の真言(おん ころころ せんだり まとうぎ そわか)を唱えると、なんだか利いてくるような気持ちに

なるのが不思議。

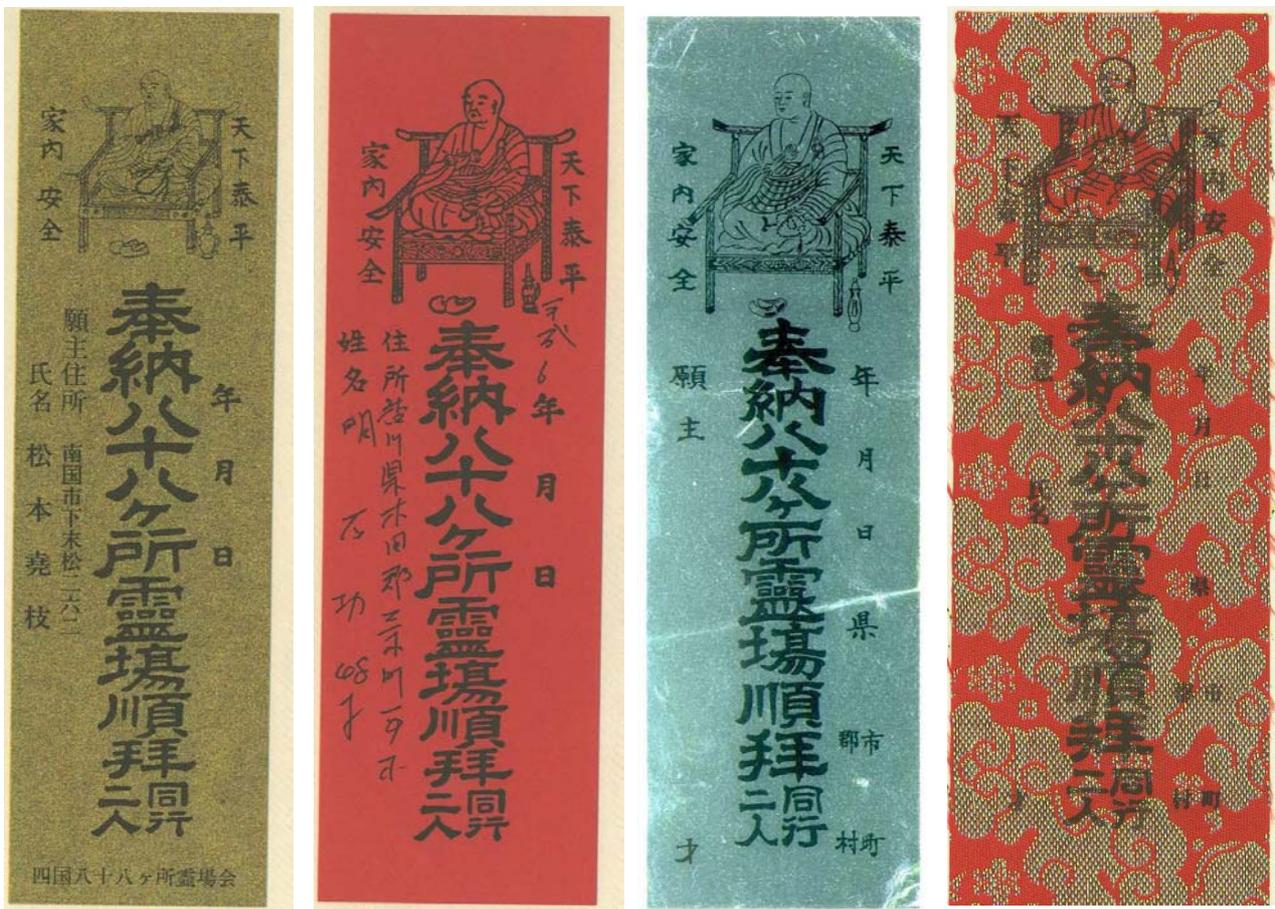
午後7時過ぎから、本堂で「お務め」が有り、私も一応参加してみる。私から見ると少し大げさ過ぎると思われる（真言宗とはこういうものか？）太鼓と鉦の響きの中で、本堂を埋め尽くした200人以上の女性が般若心経等を大声で合唱。ほとんどの女性は満足げの面もちと見受けた。しかし参加している男性（これも殆ど60以上）はどうも身が入っていないの多いと睨んだ。そんな事を観察している私は？ 宿泊代2食付きで4300円。（上右図は22日朝住職との記念撮影）

IV. 高松へ

七番 十楽寺 ～九番 法輪寺

○5月22日 朝食6時半。7時過ぎ出発。

次の七番 十楽寺の納札箱で銀の納札(下左図)を発見。有り難く頂く。



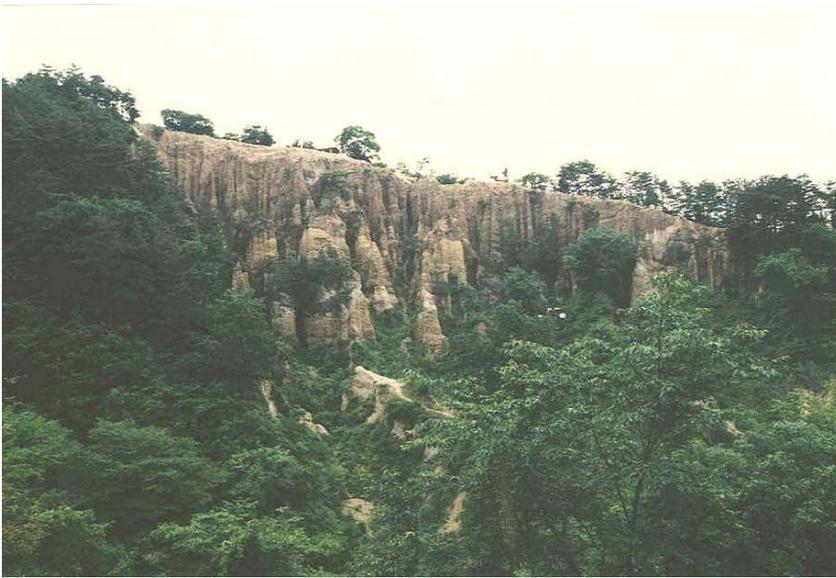
納札は遍路4回まで白、7回まで緑、20回まで赤、50回まで銀、100回まで金、それ以上は錦とするのが一般的らしい。金札や錦札は守札にもなって、特に珍重されているようである。

(上右端の錦札は五十三番 円明寺で頂いたもの：後述)

納札は遍路の名刺と考えれば良く、「私、本日お参りしました。仏様、お大師様、どうぞよろしく」と言ったところか。

この他人の納札は頂いても良い事になっている。赤までは良く見かけるが、銀以上はなかなか無い。この当たりの詳細は、

西岡寿美子著「四国おんな遍路記」新人物往来社発行 に詳しい。



八番 熊谷寺。ここでは寺域に拡声器で、ご詠歌を流している。この雰囲気は、8ミリビデオに限ると撮影。小鳥の声も聞こえるがこれもテープか？（液晶ビュウカム持参）

九番 法輪寺 から山を越えて八十八番 大窪寺（香川県）に回る。

ここから逆打ち（番号を逆に回る事を言う）をするのである。

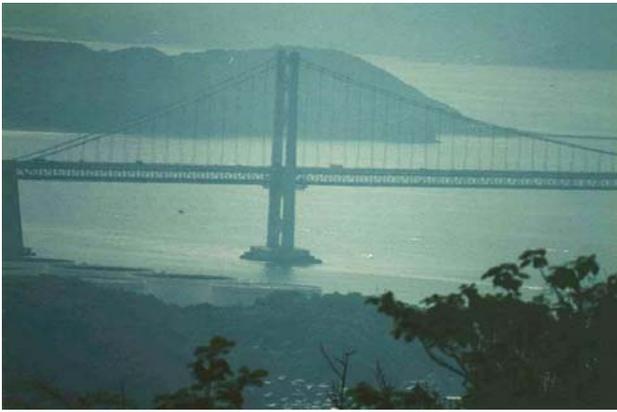
実は、25日に今治にいる古い友人に合う予定があり、（友人はまだ現役の社長でありここしか都合が着かない）順打ちでは日程が苦しいのでそうしたのである。（これが現在高松に居る理由）

途中、土柱に寄るが期待はずれであった（上図）。

八十八番 大窪寺 ～八十一番 白峰寺(以下逆打ち)



八十八番 大窪寺。 八十七番 長尾寺。 八十六番 志度寺。 八十五番 八栗寺(上左図^V)。 八十四番 屋島寺(上右図)。 ここで讃岐うどん（天ざるにしたのが悪かったのか）の昼食をとったが、全く期待外れ。



ここで道を間違え、五色台スカイラインの方向へ入ってしまう。それも良しとして、見晴らし台から本四連絡橋の写真を撮る(上左図)。ニコンにレフレックスニッコール500ミリをつけ、三脚、レリーズも持ってきた甲斐があった。(普段は24~50ミリズーム使用)

八十二番 根来寺(上右図)。八十一番 白峰寺 の後、高松市へ逆戻り、ワシントンホテルに入る。ここで初めて回転籠式立体駐車場利用。担当者の手取り足取りのガイドでどうやら車を籠に納められほったした。

始めの計画では、町に出て、うどんを食べる予定だったが、昼の印象が悪かったのと、ホテル宿泊者へのサービスでステーキ1700円のチケットをもらい、その宣伝のコピー「うどんよりも、やっぱり」お腹がおきるもん”でない
とね」になるほどと、ステーキにした。

以上 第一報

敏翁

#4767/4769 東西南北「日本の旅」

★タイトル (WDJ17088) 94/ 6/ 7 0:47 (173)

四国ドライブ遍路記(2) 敏翁

V. 「こんぴらさん」から今治へ

八十番 国分寺 ~七十一番 弥谷寺

○5月23日(月) 高松ワシントンホテル8時過ぎ出発。

八十三番 一宮寺 八十番 国分寺

次の 七十九番 高照院(天皇寺)は本当に解りにくい。ここは意識的にわかりにくくしているとしたか思えないほどである。納経所(お参りが終わった後、納経帳に朱印を受ける所)も又分かりにくくなっていた。



七十八番 郷照寺(上左図) ここも結構分かりにくい。 七十七番 道隆寺(上右図) 七十六番 金倉寺

七十五番 善通寺(下左図) ここは駐車場からして野球場程度の大きさがあり、大きい寺である。駐車代200円。弘法大師生誕の聖地として有名。



ここで、本日の泊まりは、七十番 本山寺そばの旅館「一富士」を予約。

七十四番 甲山寺 七十三番 出釈迦寺 七十二番 曼陀羅寺

七十一番 弥谷寺 途中で道路工事で迂回するところがあり、その中に重要な道案内があったらしい。ぐるぐる回った後その事に気づき、やっとの事で到着。(約一時間のロス)

ここは岸壁に刻まれた仏像(上右図)で有名。ニコンとビューカムをもって参道を進む。急な石段(262段あるそうだ)を登って少し気分が悪くなる。

ここで、本日の予定完了。そこから20分程車を走らせて旅館に到着。そこで、納経帳を 弥谷寺に忘れてきた事に気づく。

電話で連絡したところ、拾って寺に届けた人があったと聞いてほっとする。明朝6時から門は開けているとのことであるが、一瞬あの階段を又登るのかとぞっとする。しかし寺の方が「実は参拝者には進入を禁止しているが、車で登る道があり、それを使って良い」と言って頂いたので再度ほっとする。

○5月24日(火)

そういう訳で、6時半に宿を出発。寺の専用路を登るがこれが今まで経験した事の無いものすごいもの。又登った後車を回転するのも、崖ぎりぎりのところを使うと言う危険なものであった。

しかし、大切な納経帳は無事戻り、届けてくれた方、寺の方に感謝。寺に3000円の報謝をする。



こんぴらさん

ここで、昨日は時間の関係でカットした「こんぴらさん」参りをはさむ事にする。石段には閉口気味なので、籠を頼む(上左図)。しかし「籠かき」は私の体型を見て一瞬ぎょつとしたようだ。(私の体重80キロ、それに例のニコンとビュウカム)。しかし担いでくれた。大門到着後、定価5000円にチップ2000円を渡す。(上右図は「五人百姓」なる飴売り)

しかし、大門から本宮まで更に約300段(正確では無い)の石段がある。休み休み登る。昨日の弥谷寺よりは疲れが少ない様だ。これは多分この勾配が弥谷寺より緩い為だろうと思う。

七十番 本山寺 ~五十四番 延命寺



七十番 本山寺(上図) に戻る。

六十九番 観音寺 六十八番 神恵院 この二つは同じ境内にある。

その後、車で「銭形展望台」に登り、有名な(寛永通宝)銭形を見る。 昼食でうどんに再度トライ。こんどは暖かいものでてんぷらうどん。味はまあまあだった。

六十七番 大興寺

六十六番 雲辺寺 ロープウェイで登る。 その中からの展望は素晴らしい。ここで本日の泊まり

六十一番 香園寺の宿坊を予約。

ここから 六十五番 三角寺に至る道は行き違いの困難なところも多い道が長い。若葉マークの私は、タクシーの運転手（この細い道に入ってくるのはタクシーが多い）に3回ほど助けて貰ってやっと参拝完了。



ここで本日の参拝完了。4時5分出発。ここから高速道路（松山自動車道）を利用。「三島川之江」から終点「いよ西条」まで。そこから国道11号で、六十一番 香園寺(左図)に5時半に到着

ここの宿坊は、前報で紹介した 六番 安楽寺と並んで大きなものである。（定員 350名）本日の泊まりは40名ほど

だった。4500円。ここは領収書がある。

すぐ入浴、6時より夕食。7時より「大聖堂」で勤行。ここの勤行は般若心経と真言の繰り返しが多すぎて、安楽寺のと比べてやや退屈。

○5月25日（水）

朝食 6時。 出発 6時30分

六十番 横峰寺 へ向かう。

現在ここだけが、車でのアクセスを拒否している。

上野原まで車。そこと寺から1.5KMの所との間、せとうちバスがシャトルしている。1680円。バスは21人乗り。私の場合はお客は私一人。他にバス会社の連絡員(?)が一人だけ。あと登りを30分歩く。

一緒に歩きながらの連絡員(50才台)の話。昨日のお客は150名。ここのところ4月から5月の始めがピークで最高で600人/日で減っている。数年前は1000人を越えていた。理由は達者な先達(巡礼の案内役。道案内の他に札所でのお勤めの導師、宿泊場所や昼食の手配、その他巡礼中の一切の責任を負う)が亡くなる等で減っている為との事等。帰りのバスもお客は私一人であった。

六十四番 前神寺

六十三番 吉祥寺 ここで金札を見つけ、有り難く頂く。

六十二番 宝寿寺 六十一番 香園寺に戻る。

五十九番 国分寺 五十八番 仙遊寺 五十七番 榮福寺



ここから今治市に入る。

五十六番 泰山寺 五十五番
南光坊 五十四番 延命寺

午後3時過ぎ、友人K氏の会社、ハ*電機を訪問。最近液晶ディスプレイのバックライト用の放電灯が当たり、増収増益だそうである。

工場見学の後、今治国際ホテルにチェックイン。その後、来島海峡が眼下に一望出来る「大潮楼」なるところで魚づくしをつつきながら、また私、友人ともに若い時活躍(?)した親会社(東*)の悪口を含めた批評を肴に日本酒を飲み過ぎた。そ

の後カラオケ。K氏が新しい歌ばかり歌うのに感心(左図の歌っているのがK氏)。

VI. 徳山から茂兵衛堂へ

五十三番 円明寺 ~四十八番 西林寺

○5月26日(木) 終日雨

7時40分 ホテル出発 今治から国道196号で北条經由松山に向かう。

五十三番 円明寺 納札箱の中に錦札を発見!!

感激して頂く。今治市に住む女性で102回目の参拝のもの。多分私の少し前に納札したもので、雨が強く参拝者が殆ど無かったのが幸いしたものと思われる。



五十二番 太山寺

五十一番 石手寺(左図)

ここも大きな寺。洞窟くぐりにトライ。金剛界曼陀羅、胎藏界曼陀羅を表しているとの事であるが、おどろおどろしい偶像が並んでいて感心したものではなかった。

五十番 繁多寺 四十九番 浄土寺 四十八番 西林寺

ここから、私の関係していた徳山にある会社を訪問する為、三津浜港よりフェリーに乗る。13時20分発。山口県柳井港に15時

45分着。ここから国道188号で徳山 ホテル・サンルートに入る。

会社社長S氏、常務U君と夕食。ここでも魚づくし。
それからカラオケ。私の持ち歌は、北国の春、王将、無法松と決まっている。

○5月27日（金）

午前中会社訪問。ここは半導体基板材料である、シリコン・エピタキシャルウェファーというものを生産している会社。ここも景気は急速に回復し、忙しいとの事。

午後、柳井港近くの大島大橋（通行料1240円）を渡って久賀町棕野にある**茂兵衛堂(次頁図)**を参拝。

これは、中務茂兵衛義教の偉業を記念して生地につくられたものである。

彼は、江戸時代末期から大正期にかけて、徒歩遍路では最高記録である、280回という驚異的な遍路を成し遂げた。又彼は、各地に標石を立てるなど四国遍路発展にも尽くしている。大正11年280回目の遍路途中で亡くなっている。

行ってみると（なかなか解りにくい）、小高い丘の上にある小さなお堂であった。私が訪ねた時はおばあさんが二人で堂守をしていた。私の参拝を喜んで堂の中に上がって参拝する事を勧めてくれた。

茂兵衛堂



しかし道幅2メートル程の細い坂道に車を乗り入れた為、私の実力では戻る事が出来なくなってしまった。幸いその付近で土建業の人が工事をしていたので、彼に運転までお願いして無事脱出する事が出来た。

初めに道を教えてくれたお爺さんの懇切さ（実は彼は細い道に乗り入れない事を推奨したのである）、堂守のおばあさんのホスピタリティ、運転してくれた人の親切さに合掌。

一転、生臭い話になるが、徳山の会社の連中のリコメンドで、私にふさわしいレストラン（「カクカク」>寿司」と言う）が大島大橋の近くにあると言う。（私は昔から大食いで有名）。ここの名物「ジャンボ寿し」をトライ。

これはすし飯（このサイズは普通）の上に幅10cm、長さ30cm、厚さ5cmもある魚肉がどんと乗っていると言う代物。穴子（？）も2匹まるごと出てくる。この他海老、烏賊は普通サイズ。とに

かく腹一杯になる。

1500円。

柳井港発 15時05分 三津浜港着 17時30分

18時松山ワシントンホテルに入る。ここも回転籠式立体駐車場だが、ここの担当者の方が教え方の要領が良く、比較的すんなり収まった。

夕食は魚が続きすぎたので、中華にした。

以上 第二報

敏翁

#4768/4769 東西南北「日本の旅」

★タイトル (WDJ17088) 94/6/7 0:53 (195)

四国ドライブ遍路記(3)

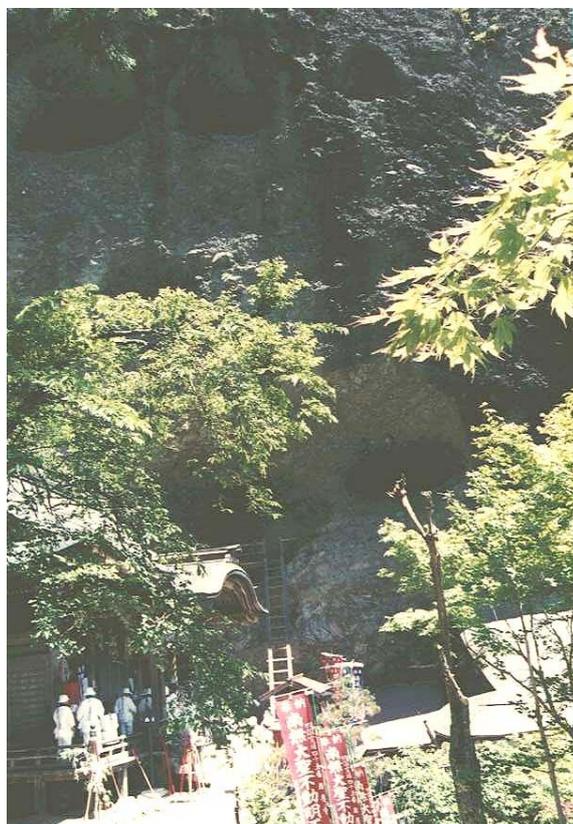
敏翁

VII. ロングドライブ

四十七番 八坂寺 ~四十一番 龍光寺

○5月28日(土)

7時50分 松山ワシントンホテルホテル出発。



四十七番 八坂寺 四十六番 浄瑠璃寺 林道でショートカットし、三坂峠の途中に出る。三坂

峠（海拔720メートル）を越えて 四十四番 大宝寺。三坂峠は今は国道33号で、快適なドライブに問題はないが、昔は吹雪の難所として知られており「三坂越えれば吹雪がかかり、戻りゃ妻子が泣きかかる」と唄われ、馬子泣かせの峠であった。

四十五番 岩屋寺(上右図) ここの登り(上左図^V)は距離的、高さ的にも弥谷寺より長く、高いが、勾配が緩い為がそれほどこたえなかった。

ここから、次の**四十三番 明石寺**は、距離的には約100kmあり、長さでは1、2を争う。かつては峠をいくつも越える事が重なり、最も苦しいとされていた。ここも現在はドライブにさほど問題は無いが、私は勘違いで道を間違え、国道33号を高知方面にだいぶ入ってしまった。ドライブインに入り道を確認。そこで昼食に「あまご（薄いピンク色の身を持つ川魚、広辞苑によるとあめのうお、ヤマメの地方名とある）塩焼き定食」。結構いけた。

途中国道56号沿いに 番外霊場 十夜<ト>ヶ橋（永徳寺。大洲市）に参拝。ここは、弘法大師が大同二年、巡錫中、村外れの土橋の下で、野宿された。その夜は吹雪の舞うきびしい夜で、一夜が十夜にも感辞されたという事に由来している。ここで、今夜の宿を予約。初め四十番 観自在寺に電話。寺の人にここまで来るのは、ちょっと無理と、宇和島泊をリコメンドされる。宇和島第一ホテルを予約。

四十三番 明石寺 四十二番 仏木寺 四十一番 龍光寺

宇和島市の 第一ホテルに入る。午後5時。

旅行案内書に出ていてホテルから2~300メートルにある宇和島料理専門「丸水」（がんすいと読む）で名物「鯛めし」にトライ。これは要するに「ぶっかけ飯」の一種で、鯛の刺身、海草、葱、しょうが、生卵、醤油をかき混ぜたものをご飯にぶっかけて食べるものである。これが意外に旨い（私の嗜好「あまり上品ではない」に合っている？）。大ジョッキの生ビールを空けながら、大型の茶碗で3杯半（お櫃を空にした）も食べてしまった。

○5月29日（日）



ここのホテルの朝飯は7時半から。昨晩食べ過ぎた事もあり、朝飯抜きで走り、中村で昼食を張り込もうと6時半スタート。

四十番 観自在寺 ~三十六番 青龍寺

四十番 観自在寺 三十九番 延光寺 三十八番 金剛福寺(足摺

岬：右図^V)

39 < --- > 38 7.5 km
38 < --- > 中村 5.4 km

張り切って丁度正午頃中村に乗り込んだが、案内書に出ている店は、みんな日曜休み。やむを得ず、一番高そうな「狐狸庵」を探す。わかりにくいのをやっと捜し当てると、日曜祭日は午後3時からとの事。

諦めて、国道56号沿いのファミリーレストランで四万十べんとうを頼む。鮎の甘露煮が一匹入っているだけ。情けない。

ここで、今夜の宿を予約。三十六番 青龍寺近くの国民宿舎を狙ったが満員。その推薦でそばの「酔竜」を予約。6000円、6500円、7000円が有るといふ。7000円のにした。

三十七番 岩本寺 三十六番 青龍寺

中村<--->37 44 km 37<--->36 58 km

「酔竜」に入る。ここは民宿に毛の生えたようなもの。しかし夕食の料理は質、量共に良かった。本日は、今まで最高のロングドライブ 300 km。

「68才からの同行二人」

「酔竜」で、へんろみち保存協力会編「68才からの同行二人」・・・四国霊場徒歩巡拝究極のモデルプラン・・・なる冊子（64ページ）を貰った。

実は、外のパンフレットと一緒に並べてあったので、無造作に貰ってしまったが、あとで良く読んでみると有料だったらしい。その罪滅ぼしの意味も込めてやや詳細に紹介してみる。

本プランは、老人の体力に合わせ、63日のゆとりある日程になっている。又全行程を一度に巡拝するのは困難なので、数回に分けてする場合にも旨くできる事が考えられている。

その細かい分刻みのモデルプランが出来ているが、その基礎的条件は

- (1) 平地平均歩行速度 毎時3 km 昼食時間を40～50分計上。
- (2) 一日の行動時間 10時間以内 平均8時間41分
- (3) 一日の実歩行時間 8時間以内 平均6時間37分
- (4) 一日の歩行距離 20 km 平均18.7 km

この外にもきめの細かい配慮がある。

又本協会は「へんろみち一緒に歩こう会定期巡拝参加者」の募集も行っている。

	札所の区間	所要日数	実施の時期
①	1～23番	9日	3月下旬
②	23～33番	9日	4月中旬
③	33～39番	10日	5月中旬
④	39～53番	10日	9月下旬
⑤	53～69番	9日	10月中旬
⑥	69～1番	9日	11月中旬

興味のある方は協会に問い合わせてみたらいかがでしょうか？私も一度参加してみたい気分にもなっています。

アドレス等は へんろみち保存協力会 〒791 松山市ひばりヶ丘5-15
t e l 0899 (52) 3820

尚本冊子の裏表紙には英語のコピーがあって、なかなか感じが出ているので紹介する。

Henro pilgrimage to the 88 temples on the Shikoku Island, Japan.
walking gives you a chance to expose yourself to the beauty of
the nature and the warmth of the people. Have a nice trip!

○5月30日(月)

朝、鶯の鳴き声で目がさめる。寝たまま窓の外に目を転ずれば、快晴で中天に半月（厳密にはやや太い）がかかっている。実に気分良い。

しかし、すぐに現実は厳しく、財布の中が心細くなっていて、本日中に高知（小都市では困難らしい事が前出の「定年からは同行二人」にある）の町で預金をおろさなければならない事を再認識する。

三十五番 清滝寺 ～二十九番 国分寺



三十五番 清滝寺 三十四番 種間寺 三十三番 雪けい寺

桂浜(上左図^V)に寄る。坂本龍馬(上右図^V)は相変わらず太平洋の彼方を睨んでいた。

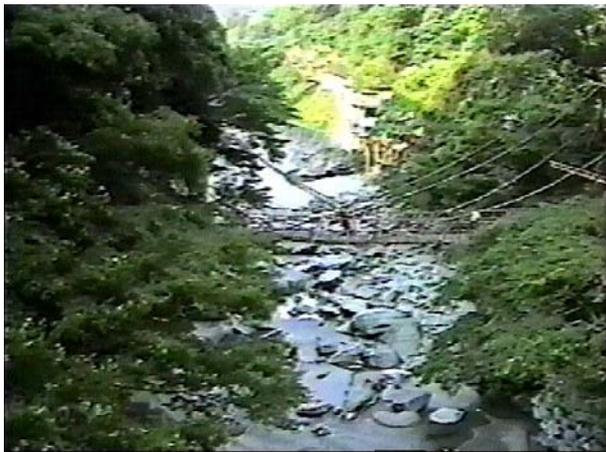
三十二番 禅師峰寺 三十一番 竹林寺(五台山) 庭園と宝物館を拝観。

ここから高知駅。案内所で「さくら銀行」を訊ねたが、高知には無い。駅のキャッシング・コーナーでトライしてみる。四国銀行のもの。さくらカード(UC)でトライしたが受け付けない。四国銀行に電話する。提携していて出来るはずだと言う。結局カードローンの方でうまくいった。これで安心。

又案内所で、土佐料理の店を紹介して貰う。中央公園の地下に駐車すれば、その回りにたくさんあるとの事。郷土料理店「土佐藩」高知本店で「どろめ」、ビール、鯉のたたき定食を頼む。「どろめ」とは鰯類の稚魚の事。

料理店、駐車場等で小一時間酔いを冷ます。

祖谷・大歩危・竜河洞



ここから、今夜の宿予約。大歩危付近は満員で駄目。結局かずら橋付近の「かずら橋旅館」を予約。国分寺近くの南国ICより高速（高知自動車道）に入る。大豊ICまで。約80パーセントはトンネル。しかも殆どが片側1車線。90km/h程度迄しか出さなかったが（制限速度は70km）、非常に緊張した。

旅館着5時20分。今夜のお客は私一人。

旅館の夕食では、そば米雑炊、祖谷そば、祖谷コンニャクの刺身、山菜など祖谷の雰囲気をつっぷり味わった。一度トライする価値は充分あるが、現代人にとってあまり美味なものではない。

かずら橋(上図^V)そのものもそのようなもの。



○5月31日（火）

旅館を8時20分スタート。大歩危に45分に着く。舟下りは9時10分から。お客は私一人。舟のドライバー兼説明役の20台と思われる青年(左図^V)に気の毒。約30分の遊覧の後、船着き場に帰ってきても客は全く居ない。

ここから、又南国へ戻る。竜河洞訪問。急な階段が多く、中腰で歩くとこもあり、秋吉台のそれと比べて(だ

いぶ前で記憶が薄れているが) きつすぎる。ここで正午となる。

二十八番 大日寺 ～二十四番 最御崎<杵杵>寺

二十八番 大日寺は竜河洞近く。

28<--->27 約40km。この中間で昼食を取ろうと混んでいそうなドライブインに入る。「国虎」なるうどん主体の店。ここで「国虎うどん」600円を頼む。これは味噌仕立て、あさつき等もたっぷり入った肉うどん。うどんも肉も量は充分有り、美味。やはり混んでいる店を選んだのは正解。



二十七番 神峰<コウバネ>寺(左図) ここはかつて6大難所のひとつ。車で登っても相当のものである。

6大難所とは、12番焼山<ショウザン>寺、20番鶴林<カリン>寺、21番太竜寺、27番のここ、60番横峰寺、と66番雲辺寺である。

二十六番 金剛頂寺 ここで今夜の宿を予約。珍しく国民宿舎「むろと」が空いていた。

二十五番 津照<シシヨウ>寺 ここは付近の道路配置上も、逆打ちでは発見困難。丁度ガソリンの入れ時だったのでスタンドで聞いてやっとたどりつく。町中の寺。

二十四番 最御崎<杵杵>寺 納経印を頂いたのが、5時3分前。そこから近い「むろと」に入る。

国民宿舎に置いて有る「思い出」と言うノート。新しくなったばかりで、私の前には、二組（5月22日、と23日。何れも年輩のご夫妻）の記載のみ。

22日の方は下関の方で、柳井--->松山フェリーから、かずら橋泊。と私と一致点が多いのに驚く。

23日の方は今治市の方で、会社退職後、毎年ご夫妻で88ヶ所回りをなさっておられ、今回が15回目という大ベテランの方。

私も3ページほど書く。その最後に国民宿舎でもパソコン通信が出来るようにすべきであるとの希望を述べて置いた。

以上 第三報

敏翁

#4769/4769 東西南北「日本の旅」

★タイトル (WDJ17088) 94/ 6/ 7 0:57 (144)

四国ドライブ遍路記(4)

敏翁

○6月1日(水)

7時15分 「むろと」スタート。

番外 鯖大師 この護摩堂は立派。

ここから、南阿波サンライン、千羽海崖も尋ねたが、海には霞が掛かっており、眺望はぱっとしなかった。

二十三番 薬王寺 ～二十一番 太竜寺

二十三番 薬王寺



(上左図^Vは薬王寺境内から大浜海岸を望む)

日和佐 大浜海岸（アカウミガメの産卵で有名）。うみがめ博物館見学。入場料500円。産卵、孵化のビデオや大きな水槽を泳ぐ実物(上右図^V)等が見られる。ビデオで母亀産卵の涙ぐましい努力を見ていて、「山川草木悉皆成仏」が解った様な気がした。

二十二番 平等寺 この住職は生帳面な人らしく、参拝の手順が門の前に掲示してあった。1) 入門前に一礼、2) 口、手を清める。から順々にあって最後に出門時に一礼で終わるものである。この位の事はやって貰いたいとの事であろう。

その通りであると思う。しかし寺にもいい加減な者が居て（この寺では無い）電話をしながら印をぼんぼんと押されたのには頭に来た。

寺の前の「やまて」料理店にて昼食。精進定食（820円）。ふき、その他冷凍庫から出したばかりのもので凍っている。お粗末。

ロープウェイ(右図^V)で 二十一番 太竜寺。

VIII. トラブルから打ち納め

ここから、二十番 鶴林寺へ近道をするが、道を間違え、細い道で車の回転出来ず。バックで走る内、後右路



側溝に脱輪。動け無くなる。幸いそばで工事をしている人たち（5人程）に持ち上げて貰う。バンパー等に傷。今まで何とか無事故だったのに残念。ここが今回私にとっての最大の難所になった。

二十番 鶴林<カリン>寺 ～十七番 井戸寺(打ち納め)

二十番 鶴林<カリン>寺。 道路補修費で500円取られるが、交通安全守護のステッカーを頂く。車の後ろに貼る事にする。今後これを見る度に脱輪の事を思い出して戒めとしたい。

多分、京浜でこのステッカーを付けた車は殆ど無いはず。

ここで、今夜の宿を予約。十九番 立江寺宿坊聞いたが本日休み。結局十八番 恩山寺 門前の民宿「ちば」を予約。

十九番 十八番 いずれもわかりにくい。途中で何回も道を尋ねたが、ここでもみんな親切だった。

「ちば」5時20分着。

ここは、基本的には遍路しか泊めない事になっているらしい。主人兼板前さんは明るい人。頭を剃っている。坊主の真似事をしているのだという。食堂には不動明王が祭っており、私たちの食事の最中も何か一心に祈ったりしていた。

又この風呂で一緒になった人は、78才で、初めての遍路を自転車で回っていて、しかも変速機も付いていないと言う。元気な人だったが、廻れきれぬかどうか心配。

○6月2日（木）

6時40分スタート。

十八番 恩山寺

ここから一番山奥の12番に入り、順に17番まで打つ計画である。

十二番 焼山<シヨウザン>寺 道に迷い、着いたのが9時半。計画より遅れ、若干焦る。

十三番 大日寺 意外に順調に着いた。

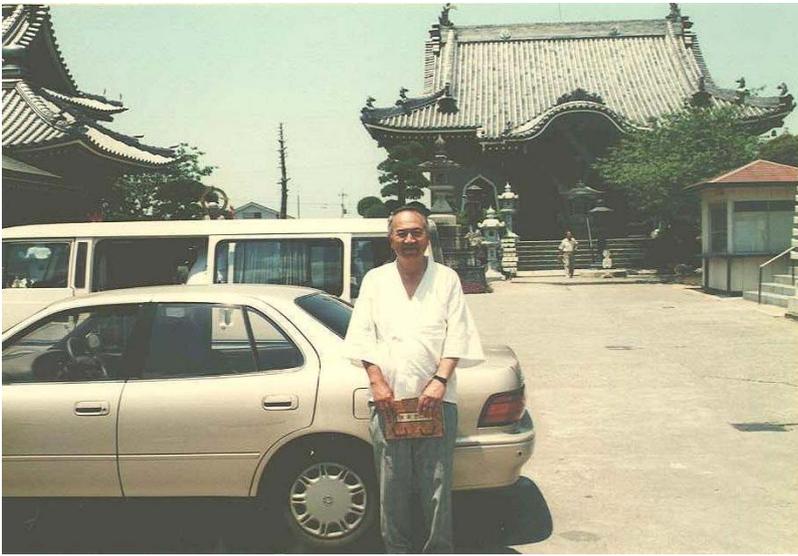
ここで、今夜の宿を予約。発想を変えてビジネスホテルを予約する。旅行案内にOA機器設置とある徳島「マーストングリーン」を予約した。

ここからは（14～17）全部徳島市内の寺であり、もう安心。

というのも、帰りは明日の徳島11時半発のフェリーで帰らなければならないのだから。

十四番 常楽寺 十五番 国分寺 十六番 観音寺

十七番 井戸寺 午後1時には、ここで八十八ヶ所打ち終わる。



(左図は打ち終わりほっとしている私。
後ろのセダンが私の愛車である

VISTA)

一寸早く終わりすぎたので、鳴門公園までドライブ。

ホテル着。午後4時40分。

○6月3日(金)

8時40分 ホテルスタート

時間があつたので、徳島城博物館及び、庭園を拝観後、フェリー港へ向かう。

11時半徳島港出発。

四国の皆さんの暖かいサポートで、どうやらドライブ遍路打ち終わりました。
この皆さん方にみ仏のご加護が有りますように。

IX. 纏め

以上の遍路記を2, 3の観点から纏めて見る。

9. 1) 走行距離等

四国内(徳島港着から徳島港出発迄)の走行距離	2056km
上記間のガソリン消費量	188リットル
燃費	約11km/l

この値は、京浜地区の町中を走る場合の	9km/l弱
と高速道路主体の場合の	12.5km/l

の間の値であつた。

9. 2) 宿の件

今回、寺の宿坊2泊、民宿・旅館4泊、国民宿舎1泊、ホテル6泊であつた。
宿坊では宗教的雰囲気味わえる。信仰心の無い人も一度は経験する価値が充分ある。

コストの点では、1)宿坊(4500円前後)、2)民宿(5500円から)、3)国民宿舎(6500円)の順である。

(いずれも一泊2食付き)

私の場合、途中でパソコン通信がしたくて、又地元の旨いものも味わいたくて、ホテルを多用したが、前者の目的の為には予約時にその電話がモジュージャックであるかどうか確認をする必要がある。

9. 3) 納経

殆どの寺は、建物に写経等を貼る事を禁じている。

写経(殆どが般若心経)を寺の本堂、大師堂にある納経箱(賽銭箱の横に置いてある事が多い)に収めるが一般的である。私は、貼れる寺には貼り、禁じられている寺では納経箱に収めた。

私が見たところでは、自由に貼れて一番趣きの出ているのは四番 大日寺であった。

以上 四国ドライブ遍路記 完

敏 翁

X. 註記

本ドライブ遍路記の元形はN I F T Yに旅の途中からパソコン通信したもの。

F T A B I # 1 1

本文は、自宅に帰ってからそれを編集加筆し、若干の誤りを正し、又パソコン通信関係の記述(どこのホテルの電話ががモジュージャックであり通信が可能か 等)を取り除いたものである。